

脳こうそく闘病記

9組 岡山大学名誉教授 医学博士 足立明

去る9月26日の朝のことでした。家族とともに、きげんよく朝ドラを見終えて、シャワーを浴びているときでした、急にめまいが起こり、ものが2重に見えて、立っていられなくなったのです。大声を上げて家族を呼び、着替えもそこそこにかかりつけのお医者さんへ。一刻も早く、脳卒中集中治療室のある病院へ行くようにとのご指示。早速、紹介状をもらって国立病院へと急ぎました。



る病院へ行くようにとのご指示。早速、紹介状をもらって国立病院へと急ぎました。

一通りの検査を受けた結果、比較的軽い脳幹部の梗塞とわかり、すぐに脳卒中集中治療室に入院、48時間、抗凝固剤の連続点滴投与を受けることになりました。症状は、ものが2重に見える複視と顔面神経麻痺のみです。幸い四肢にはなんの麻痺もないので、2週間後には、これら顔面の後遺症を抱えたまま、退院しました。後は、日にち薬で、気長に機能回復を待つよりほかはありません。複視も、顔面神経麻痺も、効果的なリハビリ法がないようです。自分の年齢を考えると、お迎えが先か、回復が先か、いささか問題です。大学在職中には、実験動物の脳幹に、ガラスの細い針を刺して、神経の活動を調べる仕事を続けてきたので、さてはその報いかと自戒しております。

ところで、私とほぼ同時に集中室に入院された、左半身麻痺の重症患者さんがありました。この方はただちに血栓溶解剤(tPA)の投与をうけられました。この特効薬は、発症後3時間以内に投与しなければならないとか、危険な副作用があるなど制約の多い薬ですが、その効果は抜群です。入院5日後、私が一般病棟に移って後、院内を散歩しているとき、ば

ったりとその患者さんにであいました。すっかり四肢の麻痺はなくなって、にこにこ笑いかけながら、私に挨拶してくださったときは、我が眼を疑いました。



血栓溶解剤の威力を、まざまざと見せつけられた思いでありました。お恥ずかしい限りですが、脳梗塞は、今回で3度目なのです。しかし、前回の発病時とくらべて、その治療法の進歩はめざましいものがありました。そんなわけで、とにかく脳梗塞の疑いがあるときは1分1秒でも早く、集中治療設備の整った病院へ駆けつけて下さい。(今のところ岡山では川崎医大か国立病院とのことです) まさに時間との闘いなのです。脳梗塞による寝たきりを防止するためにも。

後になりましたが、町内の皆様からいろいろご親切なお言葉を頂戴し、元気づけられました。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

